学校教育目標 ・自律…自ら考え、判断し、行動する ・尊重…違いを理解し、他者を尊重する ・創造…他者と協働しながら新たな価値を創造する	経営理念	人間尊重と生徒、保護者及び地域との信頼を基盤として、持続可能な社会の創造者・開拓者を育成する。
--	------	---

評価計画						自己評価				学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	2月						
生徒が自律的に活動する学校	1	安心・安全な環境の中で、関わり合いやつながりを大切に、豊かな人間性や社会性を育む	・豊かな人間性や社会性を育む	・特別活動における「話し合い活動」の研究及び実践	①「生徒が教えあったり、話し合ったりする学び合いの場を設定している」の肯定的な割合	100%	96%	100%	100%	3	話し合い活動を積極的に取り入れることができた。	A	・すべてのクラスで、授業において「話し合い」ができていた。	・今後はSELを導入し、より話し合い活動の充実を図る。
				・生徒会による行事の運営の充実及び活性化	②「学校行事、生徒会行事に満足している」の肯定的評価の割合	85%	86%	87.90%	103%	3	本年度の生徒会による行事は、生徒会が中心に行事を実施した。生徒一人ひとりが目標に向けて努力する中で、達成感の充実につながった。	A	・今後も継続的に生徒会活動に力を入れてください。	・より達成感や満足感が味わえる活動になるように一層の充実を図る。
				・キャリア教育の充実	③「卒業後の進路や将来の職業について考えている」の肯定的な評価の割合	80%	85%	88%	110%	4	文化祭での3年生による高評価学習の成果発表は、1、2年生の進路意識向上に貢献したと感じる。また、各高等学校が1、2年生対象のオープンスクール等を実施しており、その案内を行ったことも影響したと思われる。	A	・いろいろな機会を利用して、充実を図ってください。	・主体的に生き抜く生徒の育成に向け、あらゆる活動において全教職員が意識をもって取組をすすめていく。
			・問題行動・不登校の未然防止や解決に向けた取組を充実させる	・SSRの充実 生徒指導サポート実践校事業の取組の推進	④ 毎月教職員が会えない生徒数	毎月2人以内	10月6人	1月8人	25%	2	4月→3人、5月→3人、6月→4人、7月→3人、8月→10人、9月→6人、10月→6人、11月→4人、12月→6人、1月→8人と目標値には程遠い。1月において、事情があり会うことができない生徒が2名。その他は精神的な状況で会えない生徒であるが、保護者とはしっかりと連携ができています。	B	・保護者の考え方が変わってきた中で、きめ細やかな実態調査を行い、取組を進めていることはよい。	・一人一人を大切にす対応や指導については継続して行うと同時に、保護者の考え方を変えていく取組の工夫を行う。
				・SC及び心のサポーターと連携した教育相談の実施	⑤教育相談の実施回数	年4回実施	2回実施	年4回実施	100%	3	いじめアンケート後に教育相談期間を設け、放課後、担任が計画的に面談を行うことができた。2月中旬に第3回のいじめアンケートを行い、教育相談期間を設ける。	A	・機会を逃さない対応をしてください。	・今年度同様、小さなことでも常に情報を共有し、教育相談の充実を図る。
				・QUの実施、分析	⑥QU分析結果(学級不満足群)	10%未滿	17.4%(7月)	15.5%(12月)	64.5%	2	1年 2年 3年 あおは1 【7月】17%(36/207)、18%(42/228)、16%(31/193)、14%(2/10) 【12月】15%(30/205)、19%(44/229)、11%(24/193)、10%(1/10) 配慮を要する生徒が多いが、個に応じて丁寧な指導を行っている。	A	・設定目標が高すぎた結果だと思います。また、侵害行為と非承認の個別結果にも着目してください。	・引き続きQU結果を学年部を中心に共有し、問題行動等の未然防止につなげていく。
				・質の高い「問い」の設定	⑦「単元を通した「問い」や個別の「問い」をもとに、課題設定・解決・表現・振り返りの過程があるように単元を構成している」の肯定的な評価の割合	90%	84%	100%	111%	4	単元構想シートの活用により、単元に入る前に「問い」を設定し、課題設定・解決・表現・振り返りの過程を意識して授業をすることができた。	A	・「問い」と「振り返り」を意識しながら授業を行うことは、「主体的な学び」を進めるうえで、すばらしいと思う。	・生徒自身が「学ぶ意義」を見出すことができる「問い」の設定など、「問い」の質の向上を図る。
資質・能力を育む学校	2	生徒一人一人の自己実現に向け、資質・能力を確実に育成する	・授業改善への取組の充実	・ICT機器の活用	⑧「授業でPC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用した」の肯定的な評価の割合	80%	50%	50%	63%	2	タブレットを効果的に活用できなかった。今後は、ICTの活用の研修をより充実させる。また、朝の健康観察のデジタル化等授業外で活用する場面を増やしていく。	B	・働くことを優先するのではなく、生徒の学力が育成できるような活用を進めてください。	・生徒の学力の向上に向け、効果的な活用推進を図る。
				・校外の研修や研究会に参加及び教育センター専門講座の受講	⑨校外研修を受講した教員の割合	100%	100%	100%	100%	3	校外研修に積極的に参加することができた。今後は積極的に参加するとともに研修内容を共有し、より充実したものにしていきたい。	A	・校内外での研修成果を校内で共有していくことが大切である。	・多くの先生が研修に参加する雰囲気がある。今後は成果を共有できる場を設定していく。
				・「対話」を促す研究デザインを取り入れた授業の実施	⑩「生徒が生徒同士や生徒と教師などの対話を通して学べるように指導している」の肯定的な評価の割合	90%	96%	100%	111%	4	すべての教員が対話的な活動を意識して授業をすることができた。	A	・成果ができています。	・形だけの「対話」ではなく、目的を明確にし質にこだわった取組を進めていく。
				・確かな学力の定着	⑪全国学力・学習状況調査、NRT等の結果	市平均以上	90%	90%	90%	3	3年生の全国学力状況調査では、国語、数学で全国平均を上回り、数学、英語は市平均を上回った。1、2年生のNRTテストでは、国語、数学で全国平均を上回った。研究授業や研修を通して授業改善を進め、学力向上を図った。	B	・分析を活かした授業改善と家庭学習の充実をしてください。	・各担当者だけの分析にならず、全教職員で分析を行うなど、学校としての授業改善につながる分析・共有・改善を行う。
			・カリキュラム・マネジメントの充実	・単元テストの実施及び振り返りの充実	⑫「生徒が書いた単元テストの振り返りをもとに、生徒に指導・助言している」の肯定的な割合	80%	69%	70%	88%	2	振り返りを充実させることはできたが、振り返りをもとに指導・助言することができなかった。今後は振り返りをもとに指導・助言を行い「個別最適な学び」につなげていきたい。	B	・次年度は、単元テストを中間試験にもどすため、家庭学習などきめ細やかな指導を行う。	・生徒の学力の向上に向け、継続して取組を進める。
				・単元構想を考える。	⑬新しい単元に入る前には、単元を通した「問い」や個別の「問い」を立てている割合	90%	96%	96%	106%	4	単元構想シートの活用により、単元に入る前に「問い」を設定し、単元を構成することができた。	A	・成果ができています。	・生徒の学力の向上に向け、継続して取組を進める。
				・学習評価の在り方の研修	⑭学習評価に関する校内研修を行い、評価の適正化を計る。	年2回実施	1回実施	3回実施	150%	4	計画的に実施することができた。全教員で共通認識を持ち評価をすることができた。	A	・成果ができています。	・信頼される評価に向け、校内研修の充実を図る。
信頼される学校	3	先見性と一貫性があり、保護者・地域から信頼される	・働き方改革への取組	・市民ポータルサイトへの登録・活用の促進	⑮市民ポータルサイトへの登録状況及び活用状況	100%	100%	100%	100%	3	全保護者が登録をしておき、大切な事項等については、積極的に市民ポータルサイトを活用している。	A	・成果ができています。	・「お知らせ」や「お祝い」だけでなく、肯定的な内容も積極的に配信する。
				・仕事の仕方改革に取り組む	⑯在校等時間のうち超過勤務時間を前年度より減少させる。	前年度比20%減	前年同期期23分増	前年度比74分増2%増	78%	2	前年同期期より、校内平均時間は2%増加していますが、部活動休業日には早退し退庁する等、働き方改革に向け意識をしている様子がうかがえる。	B	・個々に差がある。80時間超えの先生への支援や対応が必要ではないか。健康第一です。仕事のメリハリを。	・先生方の状況を把握し、積極的な声掛けなどの支援を行う。
			・令和6年度開始に向けたコミュニティースクールへの取組	⑰学校評議員会及び学校関係者評価委員会にて検討を重ねる	年3回実施	2回目実施	3回実施	100%	3	計画的に委員会を実施することができたが、スムーズなコミュニティースクールの開始に向けた取組を進めていく必要がある。	A	・コミュニティースクールの開設に向け、校内への周知、及び共通認識を図る。		

別紙様式6

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
4...目標を上回って達成 3...目標どおりに達成
2...目標をやや下回って達成 1...目標をかなり下回って達成

達成値/目標値を百分率で表示す

■学校関係者評価（学校運営協議会による評価）
A...とても適切である B...概ね適切である
C...あまり適切でない D...全く適切でない
(N...判定できない)